

# 2005年 個人情報漏えい インシデント分析

山田 英史  
セキュリティ被害調査WG

2006年5月30日

# 本日の内容

---



1. 2005年 個人情報漏えい事件の分析
2. 漏えい対策の検討
3. Winnyについての考察

# 1. 2005年 個人情報漏えい事件の分析

# 当WGの取り組み

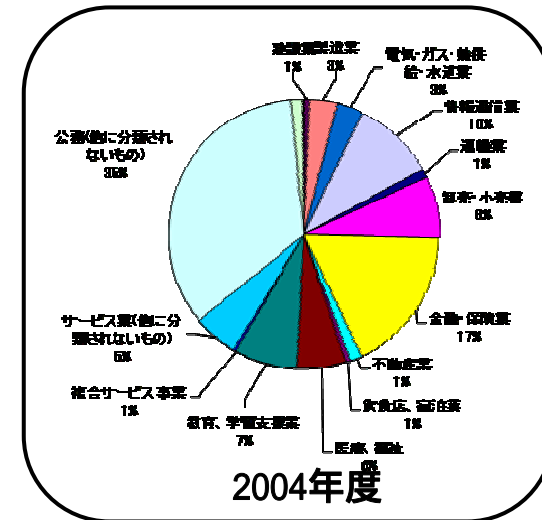
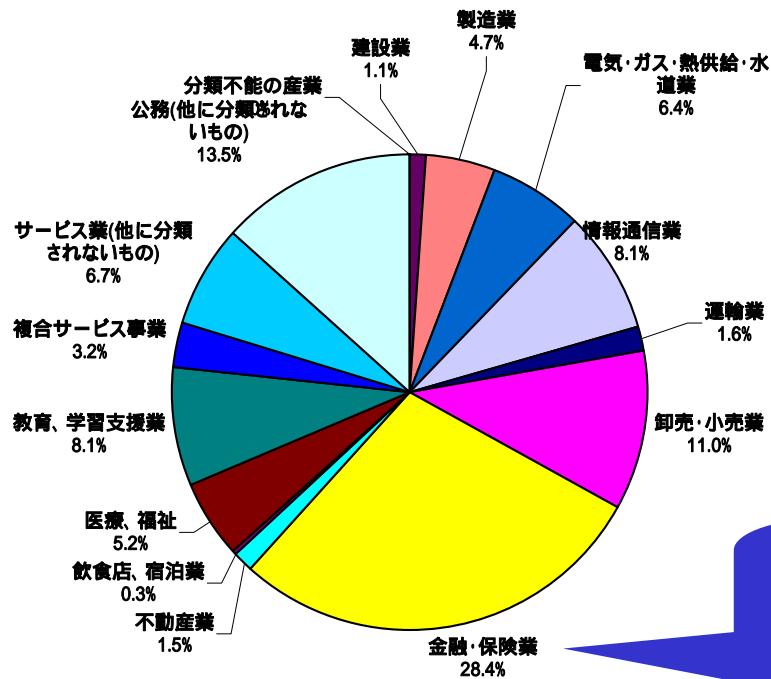


- **セキュリティ被害調査ワーキンググループ**
  - 2002年度より毎年 個人情報漏えいインシデント(事件・事故)を集計分析
  - 報道などで公開されたインシデントが対象
  - 2005年度は米カードシステムソリューションズ社に起因する事例は除いて集計した
  - 報告書  
<http://www.jnsa.org/2006/active/pol.html>

# 2005年度 個人情報漏えい事件の検証

- 調査対象事業者 (2005年1月1日 ~ 12月31日に公開された情報からリストアップ)

2005年度	2004年度	2003年度	2002年度
1032件	366件	57件	62件



監督官庁の指導  
の影響？ (昨年は17%)

# 2005年度 個人情報漏えい事件の検証



- 被害者数

2005年度	2004年度	2003年度	2002年度
8,814,568人	10,435,061人	1,554,592人	418,716人

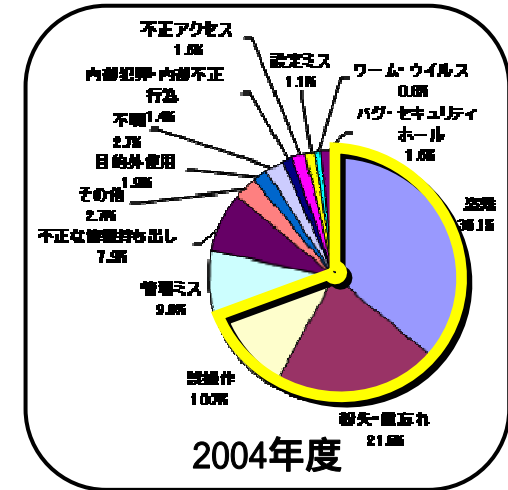
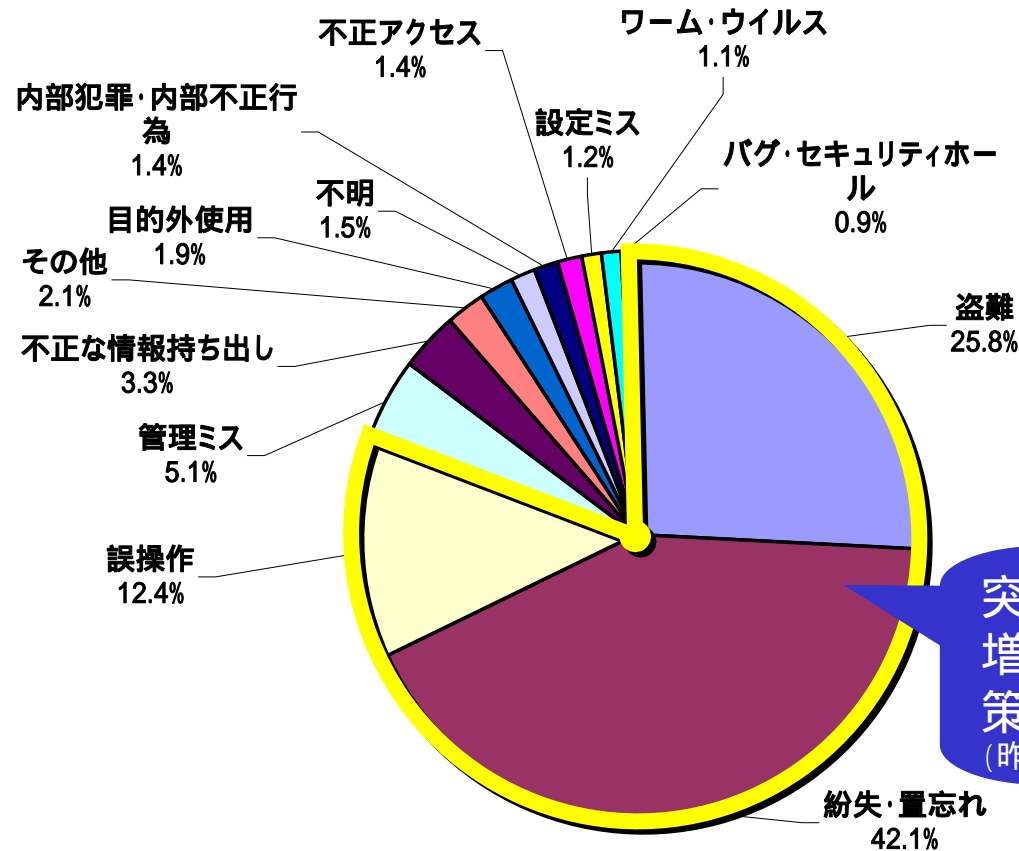
- 1件当たりの平均被害者数

2005年度	2004年度	2003年度	2002年度
8,922人	31,057人	30,482人	7,613人

母数 988件

被害者が数人でも報道されるため1件当たりの平均が減少？

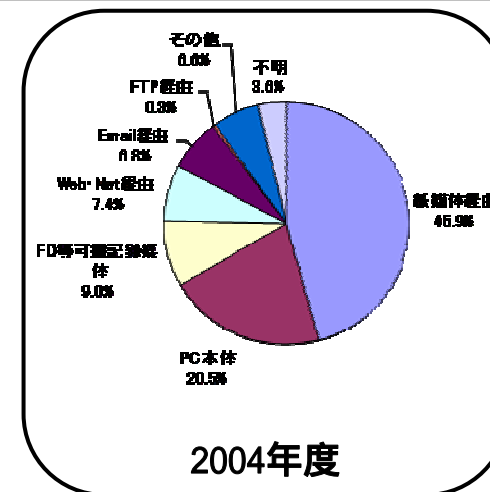
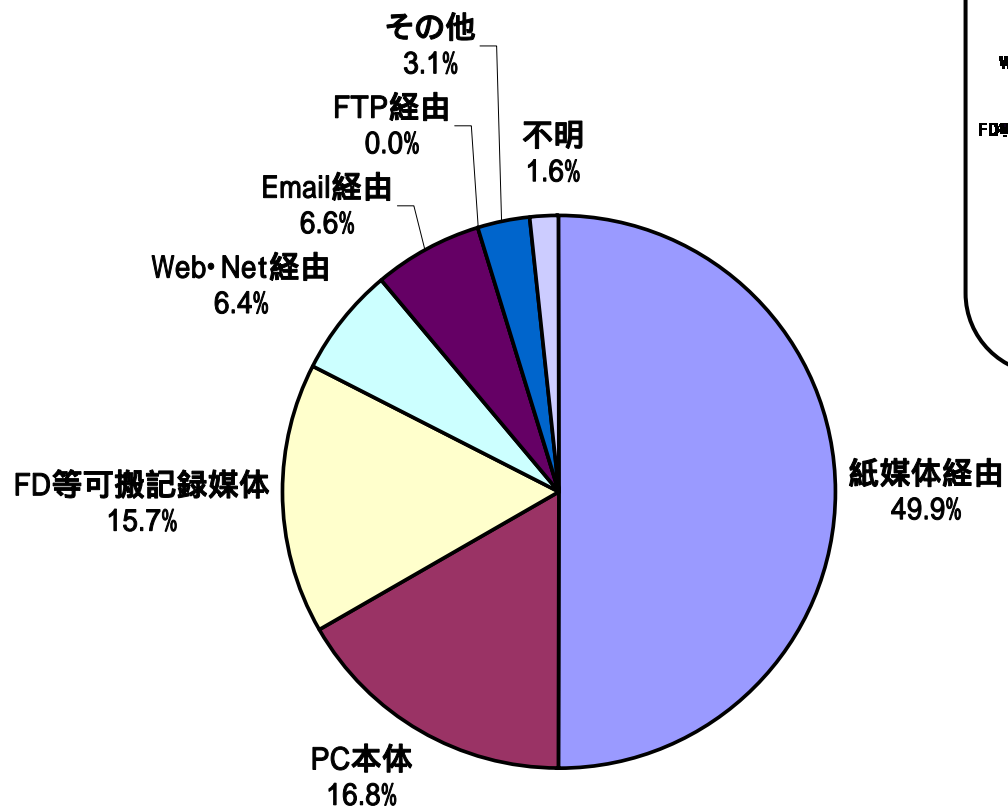
## 漏えい原因



突発的な人的漏洩事件が増加。システムの対策は進んでいる？  
(昨年は68.4%)

「盗難」と「紛失」の比率が高い。物理的対策が不十分。

# 漏えい経路



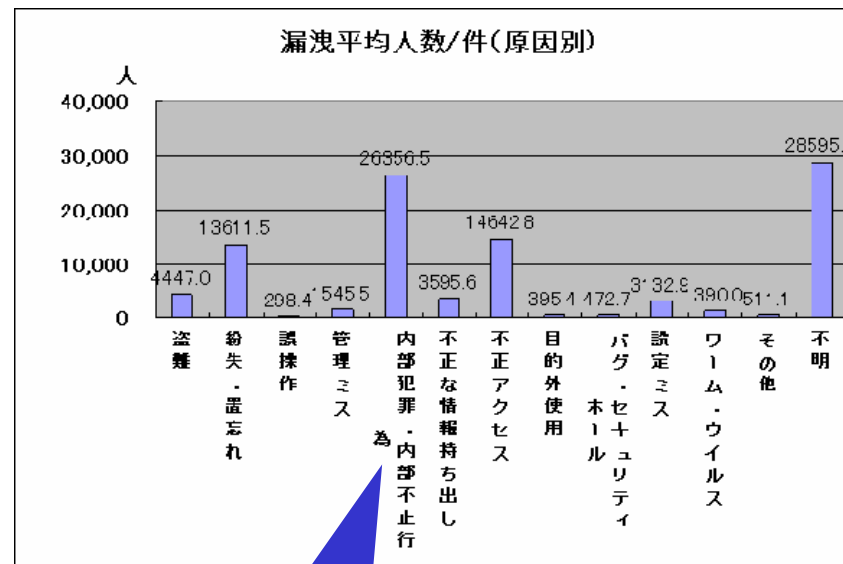
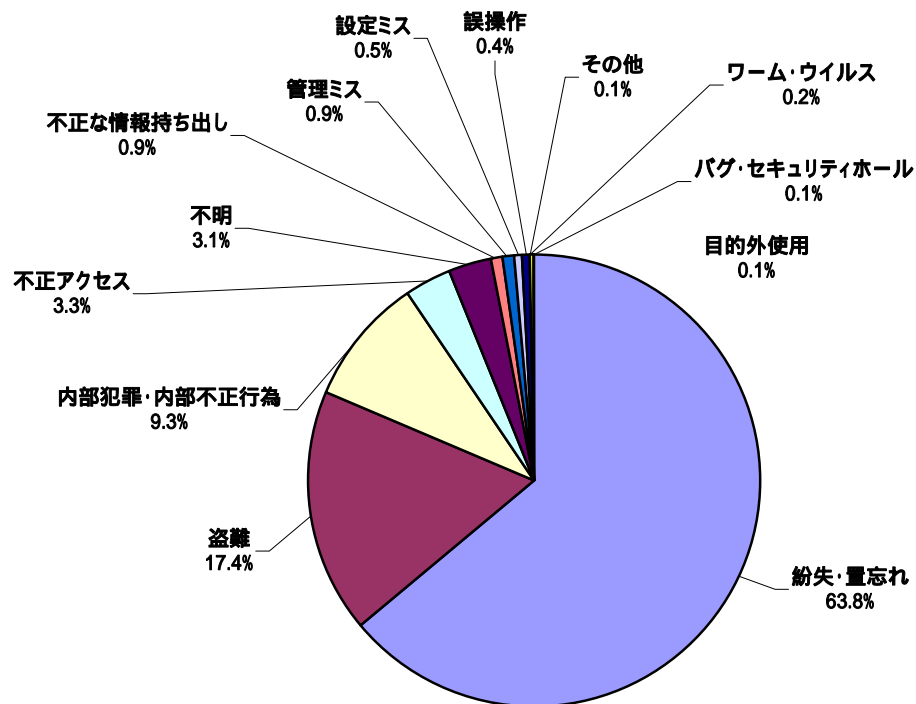
2004年度

ほぼ変化無し

「紙媒体」と「PC本体」の比率が高い。漏えい原因の比率と連動。



# 漏えい原因別の被害者数

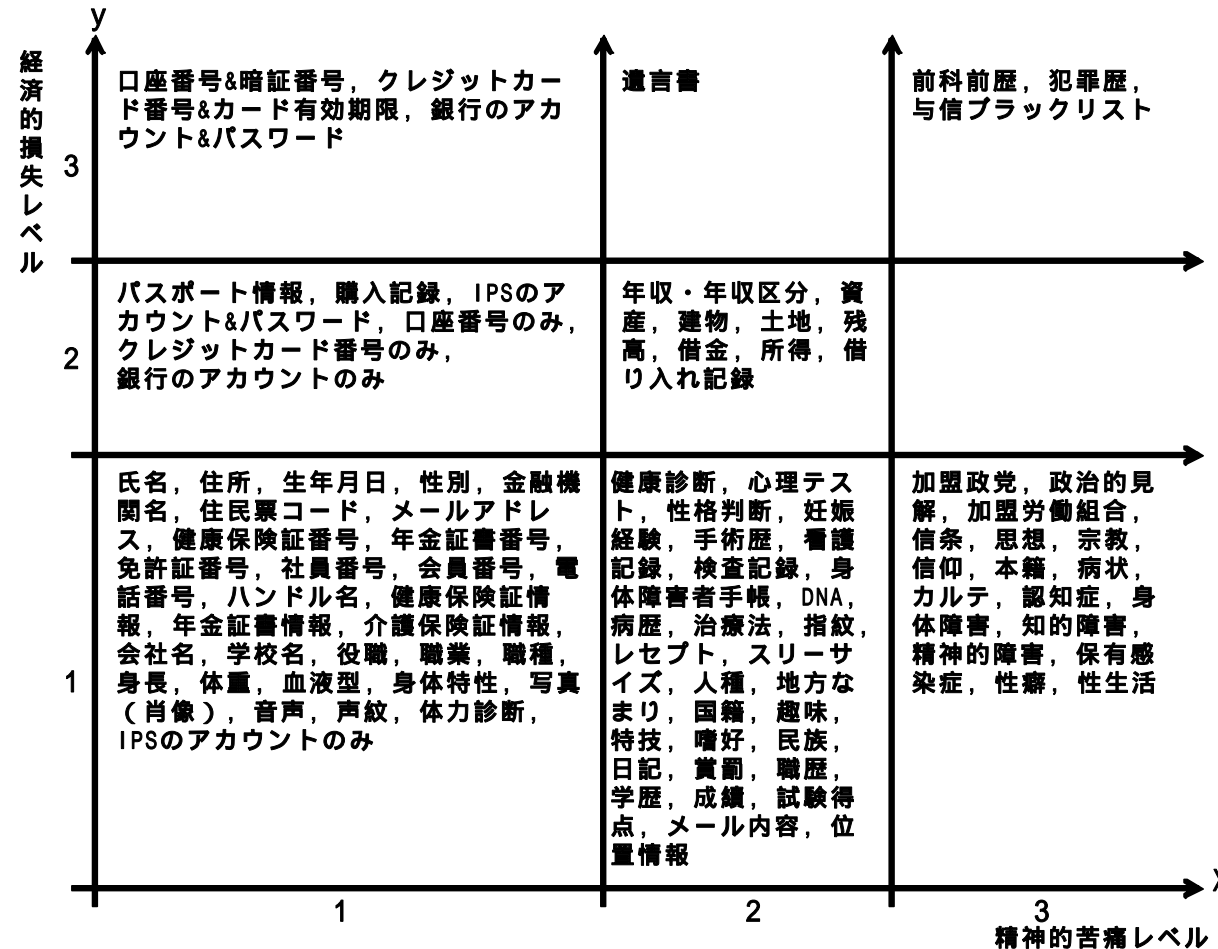


**内部の者が関係すると被害が大きい**

漏えい原因における「内部犯罪・内部不正行為」の比率は1.4%であるのに対し、被害者の比率は9.3%（3位）に。

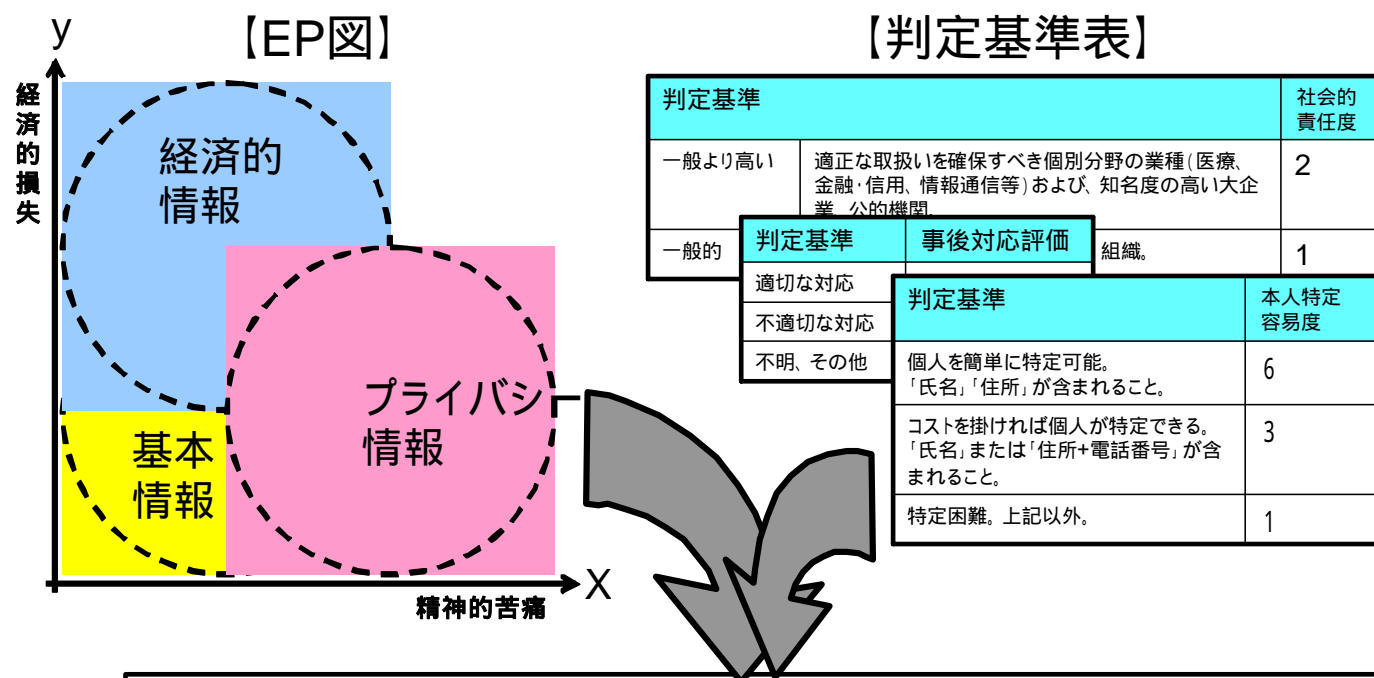
# 損害賠償請求の考察

- 想定損害賠償額算定式 Simple-EP図



# 損害賠償請求の考察

- 想定損害賠償額算定式



$$\begin{aligned}
 \text{想定損害賠償額} = & (\text{基礎情報価値} \times \text{機微情報度} \times \text{本人特定容易度}) \\
 & \times \text{情報漏洩元組織の社会的責任度} \\
 & \times \text{事後対応評価}
 \end{aligned}$$

# 損害賠償請求の考察

- 想定損害賠償総額

2005年度	2004年度	2003年度	2002年度
7,001億7,852万円	4,666億9,250万円	280億6,936万円	189億2,201万円

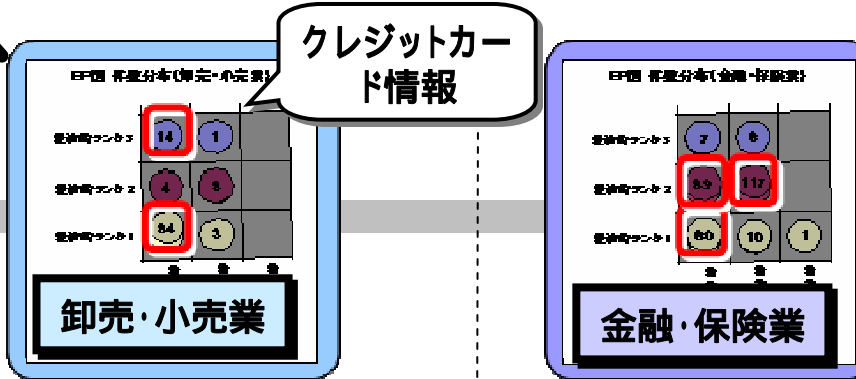
- 1件損害当たりの平均想定賠償額

2005年度	2004年度	2003年度	2002年度
7億868万円	13億8,897万円	5億5,038万円	3億4,404万円

母数 988件

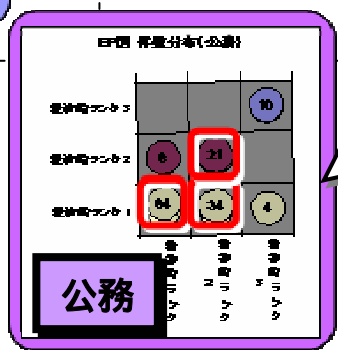
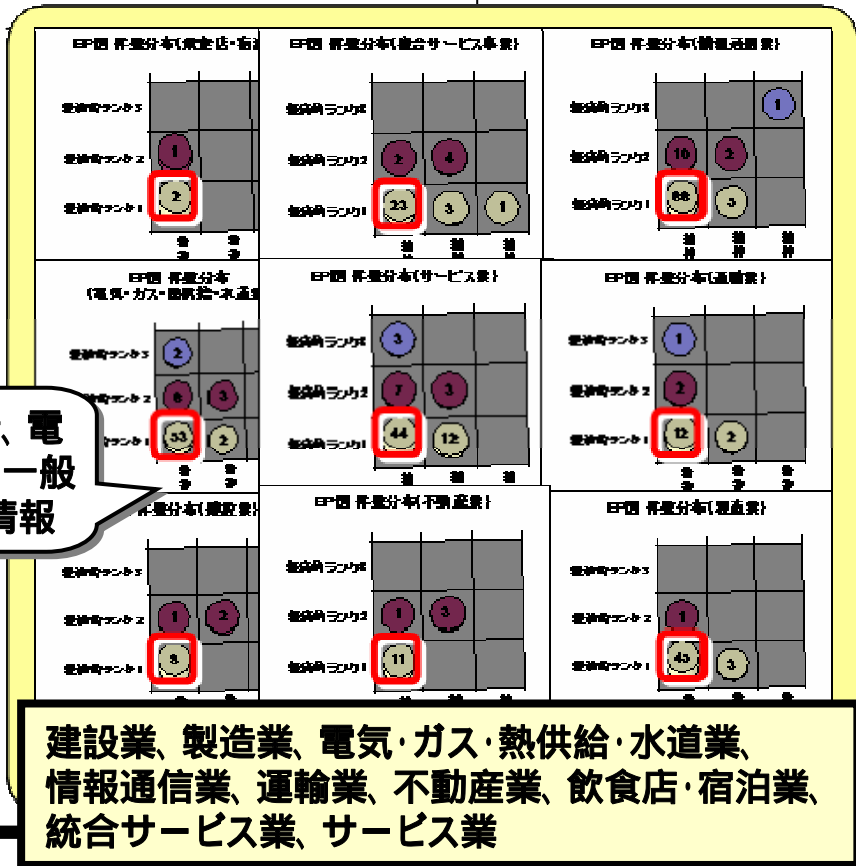
(注) 数値は全ての被害者が訴訟を起こした場合を想定したもので、現実には企業が支払った金額ではありません。

経済的損失レベル ↑

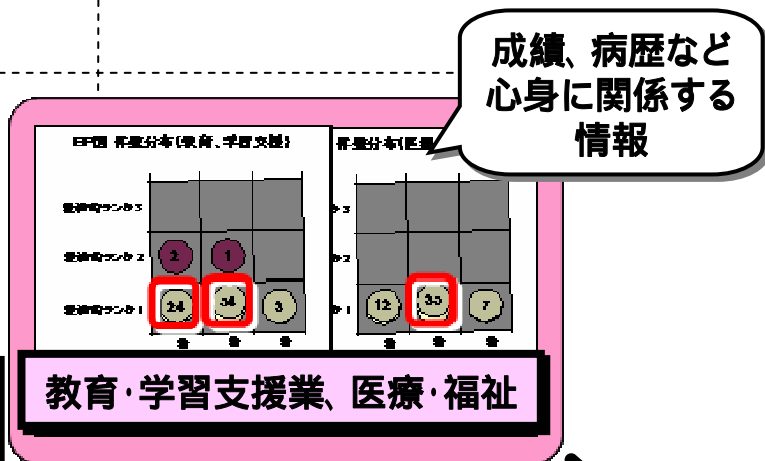


クレジットカード、銀行口座情報 + 年収、負債等の情報

業種毎に取り扱っている情報の傾向がわかる



税金、公共料金の徴収 + 個人の生活に関わる情報



成績、病歴など心身に関する情報

精神的苦痛レベル →

【図：業種毎の漏洩情報の分布】

## 2. 漏えい対策の検討

# 漏えい原因と経路から

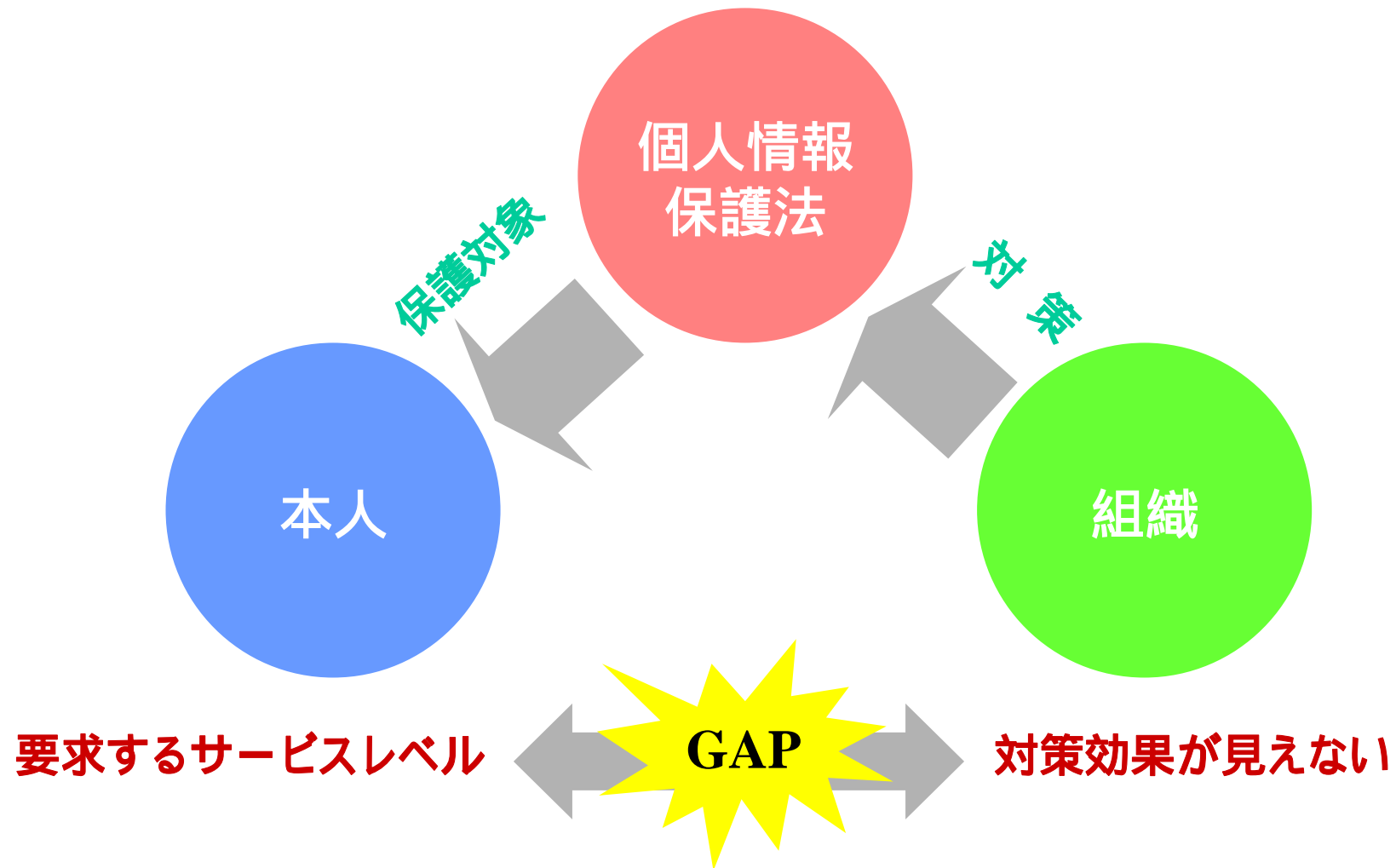
## 盗難・紛失対策

- 電車の網棚にカバンを置かない
- カバンを放置したまま車から離れない
- 飲食店ではカバンは身近に置く
- 携行するデータは暗号化する
- （PC内データ、USBメモリ）
- 不要な情報は持ち歩かない

## 内部不正対策 不正持ち出し対策

- ルールの強化
- 教育
- アクセス制限
- 秘密保持契約
- 監視（ログ、監視カメラ）

# 個人情報保護法対策





### 3. Winnyについての考察

# Winnyによる情報漏えい



定量的評価

約1000件のインシデント中

約30件（3%）

定性的評価

患者の診療記録

捜査報告書、供述調書

原発の修理報告書、補修報告書

機密情報  
機微情報

（注）件数は2005年の個人情報漏えい事件を参考にしている。  
2006年は報道が過熱しているためさらに増えると考えられる

# Winnyによる漏えいのパターンと対策案



私有PCの社内  
持ち込み禁止

情報の持ち出し禁止

or

持ち出し手続きの  
徹底と管理の徹底

未許可のソフトウェア  
のインストール禁止

ウイルス対策

# ご清聴ありがとうございました

---



- お問い合わせ先
  - JNSA事務局
  - Sec@jnsa.org

